

第7回 芹川川づくり会議

平成19年2月25日（日）

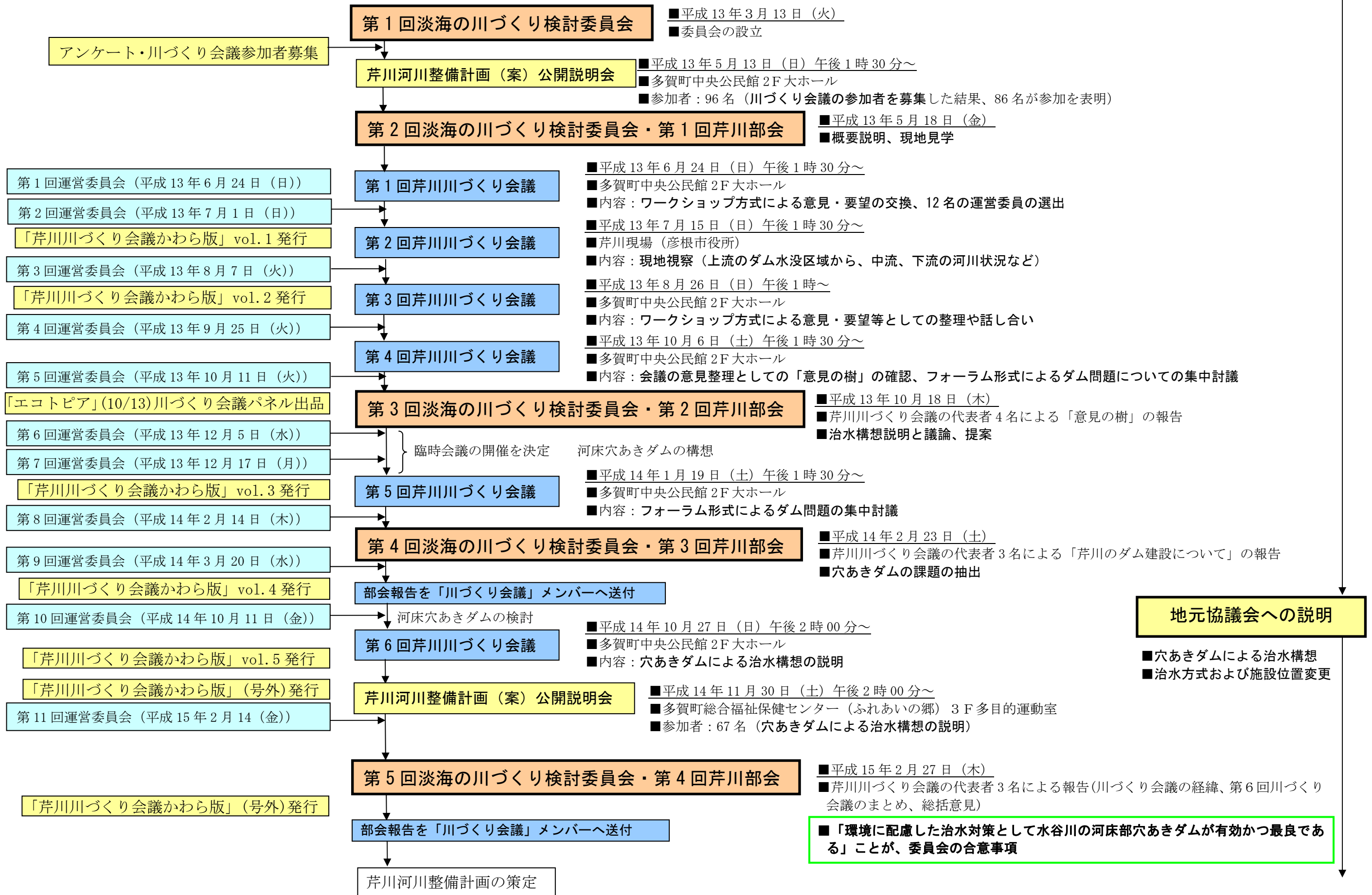
13:30～16:00

ひこね市文化プラザ

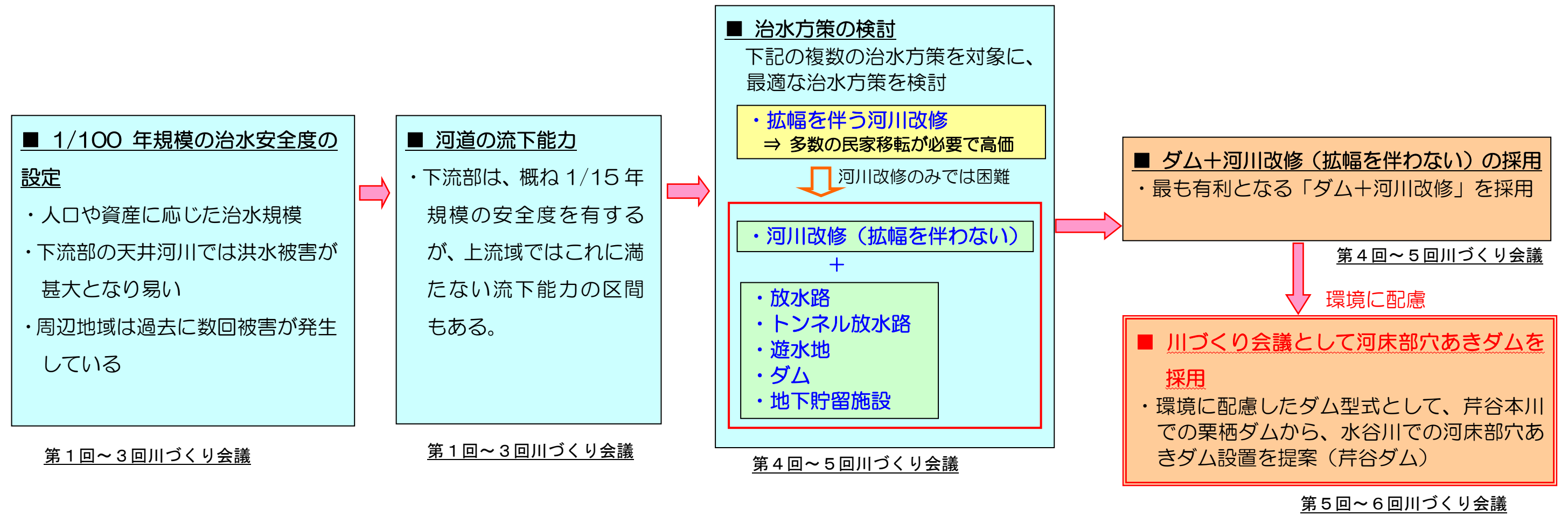
次 第

1. 開会
2. 知事ビデオメッセージ
3. 彦根市・多賀町挨拶
4. 講演 「7.13新潟水害の犠牲者に学ぶ水防災」
京都大学防災研究所 林春男教授
- 休憩 —
5. 川づくり会議
 - ① 芹川川づくり会議の経緯について
 - ② 芹川の流域治水検討結果について
 - ③ 意見交換
6. 閉会

滋賀県の取り組み（淡海の川づくり検討委員会・芹川部会／芹川川づくり会議／公開説明会などの開催経緯）



芹川川づくり会議における河床部穴あきダム建設合意の経緯



ダム建設に関わる主な意見

第1回～3回川づくり会議

- ・ 1/100 年規模の治水安全度が必要かどうか大きな問題である。
- ・ 中小洪水に対しても、ウィークポイントのないような河川のあり方を考える必要がある。
- ・ 計画超過洪水に対する対策も望む。
- ・ 流域住民が安全・安心して過ごせるようにして欲しい。
- ・ 下流部は天井川となっており、家屋が堤防に接し危険を感じる
- ・ 治水対策（1/100年）の必要性については、居住年数の長短だけでなく、過去の洪水の危険性についての認識によって見解が異なる。

第4回川づくり会議

- ・ 代替案との比較の結果、治水対策の具体方策としてダムの合理性は理解できるが、不明な点が全て解消した訳ではない。
- ・ これまでダム水没予定地区が様々な困難を被ってきたことを憂慮する。不自由を強いられている水没世帯の生活再建を急ぐべきである。
- ・ 現時点でのダム賛成・反対の議論は、やむなくダム建設に同意した水没区域の方々への配慮を欠いている。

第4回～5回川づくり会議

- ・ ダム建設については、賛成・反対の双方の意見がある。
- ・ ダム建設の反対理由は、水没による上流の河川環境の喪失に加えて、下流区間でも自然環境（水質）が損なわれることが大きな理由となっている[旧栗栖ダム計画に対する意見]。
- ・ ダムを建設するにしても環境へ与える影響を最小限にすべきである。

第5回～6回川づくり会議

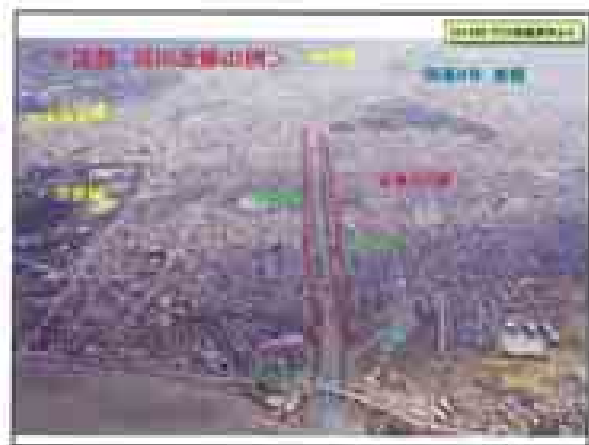
- ・ 河床部穴あきダムは生物に対しても大きなメリットがあると思う。環境に配慮したダムを早くつくって欲しい。
- ・ ダムの短所も十分説明して欲しい。
- ・ 環境よりも人命を優先すべきである。ダムを早期につくり、環境にも留意する必要がある。
- ・ 河床部穴あきダムは、川づくり会議の意見が反映されており、住民参加の成果である。

河川改修 下流部 河川改修の例

<下流部 河川改修の例>
(上流部も改修の必要がある)

・既設排水路：約234戸

洪水を防止するためには、
各郷まで河川を改修する
必要がある。



排水路 河川改修 上流部 河川改修の例

排水路改良

- ・位置：東郷地区～大郷町の水田一帯
- ・必要面積：2.85km² (285町歩)
- ・既設排水路：約 120 戸

排水路 河川改修 上流部 河川改修の例

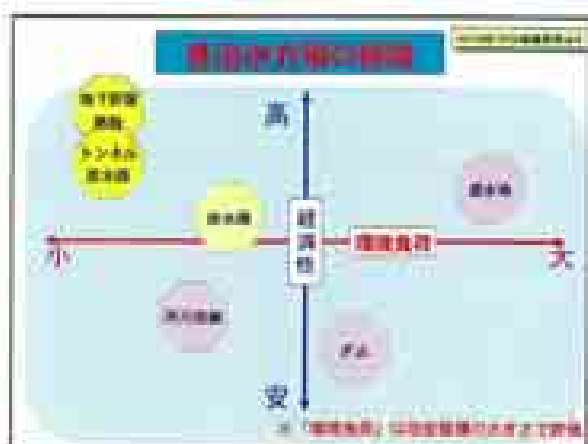
排水路改良

- ・全長：5.0km
- ・既設排水路：約450戸

河川改修 上流部 河川改修の例

排水路改良

- ・延長：5km
- ・排水面積：5.60km²
- ・構造トンネル：1,800m
- ・排水路幅：1区
- ・排水路幅：2区



自治体に最も有利な治水方策

河川・河川沿線に「治水対策」を講ずる

↓

河川の流域に設置したダム貯水、ダム貯留

↓

河川沿線の河川を「治水対策」する

河川沿線の河川を「治水対策」する - 河川沿線の河川を「治水対策」する

「治水対策」を実施した治水対策として河川沿線の河川を「治水対策」する



治水対策の一例として、治水対策

治水対策の一例として、治水対策

治水対策の一例として、治水対策

芹川の流域治水検討結果

平成19年 3月25日

国土交通省河川局河川課

近年の治水を取り巻く状況

1. 気候変動等の影響により集中豪雨等が増加

平成16年
梅雨期の集中豪雨(7月の福井災害等)
異常なる台風の上陸(10月の23号台風、豊前府由良川)

平成17年
想定を超える大規模降雨の発生(9月の14号台風災害等)

芹川流域の過去の主要洪水の概要

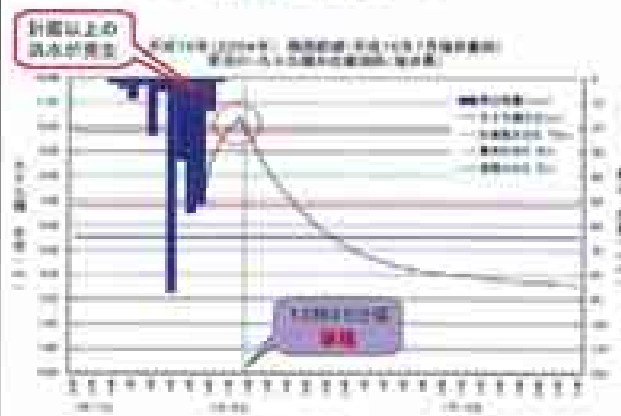
芹川の流域治水検討結果

1. 流域治水について
2. 芹川の流域治水「ためる」機能の検討結果について
3. これからの流域治水対策について

平成16年7月 福井豪雨災害(1/5)



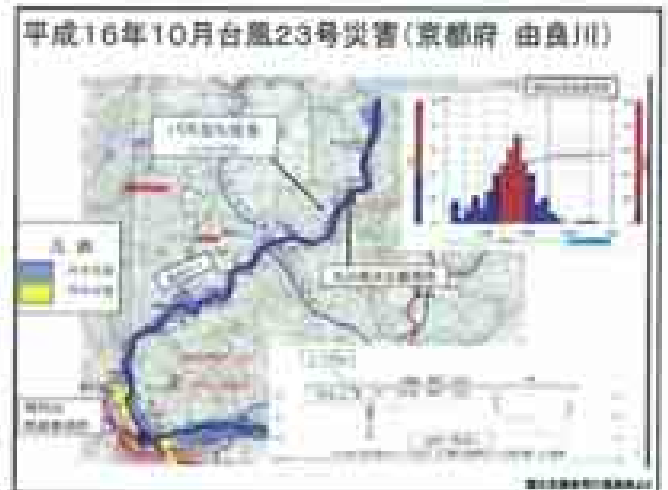
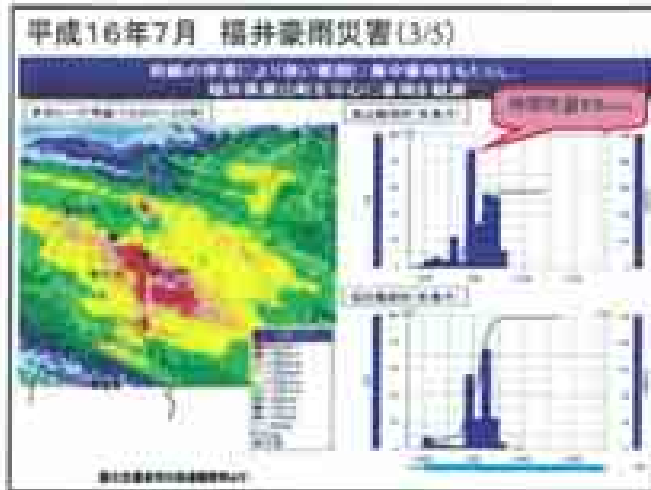
平成16年7月 福井豪雨災害(2/5)



1. 流域治水について

近年の治水を取り巻く状況

1. 気候変動等の影響により集中豪雨等が増加
2. 限られた財源の中では、河川整備に時間がかかり、整備途上で被災する危険
3. 計画規模まで整備が進んでも、計画以上の洪水(超過洪水)が発生する恐れ
4. 地域コミュニティの衰退、高齢化等により、地域の災害時の共助体制が脆弱
5. 高齢者など災害時要保護者の被災が増加
6. 土地利用状況の変化



平成16年7月 福井豪雨災害(5/5)

住民アンケート結果

- まさか川が氾濫するとは思わなかった。
- 避難勧告・指示を約6割の回答者が知らなかった。
- 避難行動を起こした人は4割弱で、その内2割が2階へ
- 膝くらい浸水した時点での避難が多く、避難時に危険を感じていた。
- 情報伝達が不十分であり、約9割が「空振りになってもよいから、避難勧告を早めに出してほしい」と感じている。



芹川流域の過去の主要洪水の概要

⇒ 芹川における主な記録としては、**昭和28年、昭和34年、平成2年**等の台風による洪水の被害がある。

昭和28年台風 (台風1号)

大規模な洪水災害が発生し、上流から中流にかけて甚大な被害が生じた。堤防決壊、水害、家屋倒壊等の被害が多数発生し、上流から中流にかけて甚大な被害が生じた。堤防決壊による浸水、家屋倒壊等による被害が生じた。被害額は約10億円に達した。被害者は約100名に達した。

昭和34年台風 (台風1号)

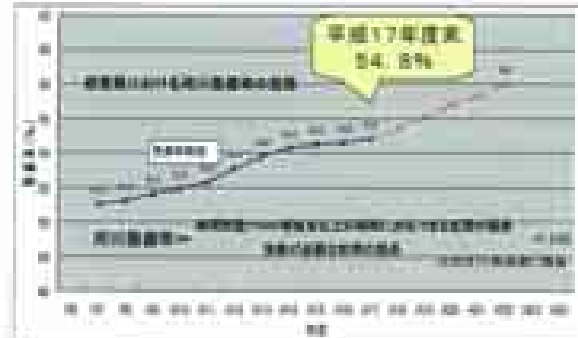
堤防決壊、家屋倒壊等の被害が生じた。被害額は約10億円に達した。被害者は約100名に達した。堤防決壊による浸水、家屋倒壊等による被害が生じた。被害額は約10億円に達した。被害者は約100名に達した。

平成2年台風 (台風1号)

大規模な洪水災害が発生し、上流から中流にかけて甚大な被害が生じた。堤防決壊、水害、家屋倒壊等の被害が多数発生し、上流から中流にかけて甚大な被害が生じた。被害額は約10億円に達した。被害者は約100名に達した。

近年の治水を取り巻く状況

2. 限られた財源の中では、河川整備に時間がかかり、整備途上で被災する危険



近年の洪水の状況

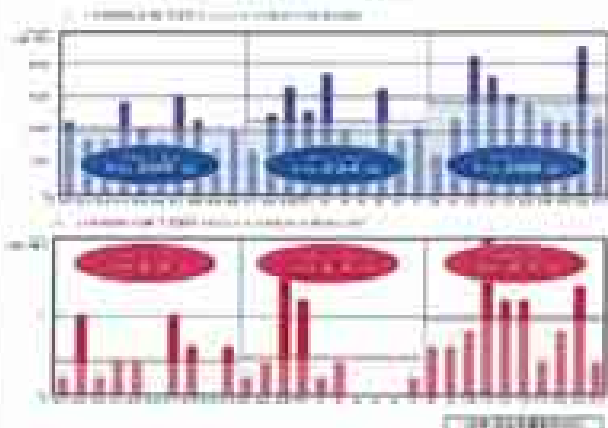
平成2年9月の台風による被害状況



近年の治水を取り巻く状況

3. 計画規模まで整備が進んでも、計画以上の洪水(超過洪水)が発生する恐れ

集中豪雨が頻発

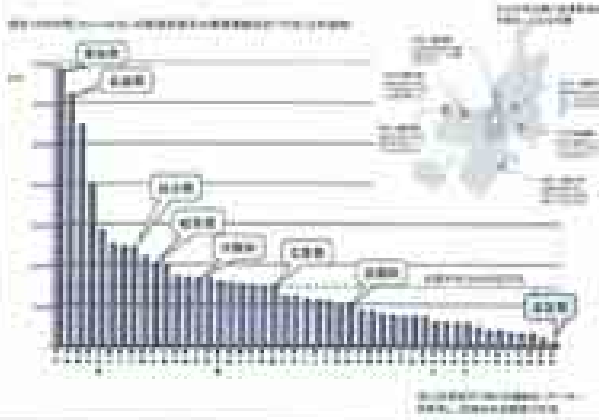


近年の治水を取り巻く状況

4. 地域コミュニティの衰退、高齢化等により、地域の災害時の共助体制が脆弱

特に沿河川では近年大きな水害が発生しておらず、被害への関心が大幅に低下しているのではないかと懸念

全国の水害被害状況(県別被害は全国最小)



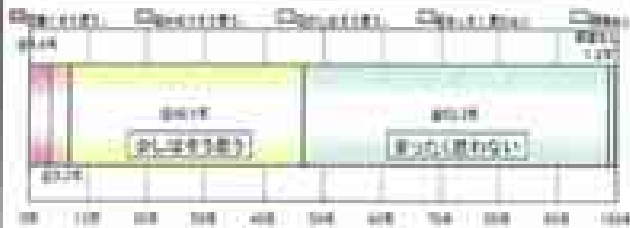
近年の治水を取り巻く状況

5. 高齢者など災害時要保護者の被災が増加

平成16年の災害では、高齢者など災害情報の聴取や避難行動の面でハンディをもつ人の犠牲者が多い

水害への関心低下

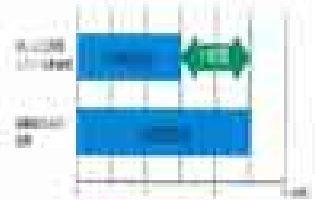
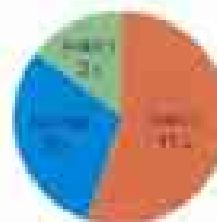
あなたは、今のお住まいが今後10年以内に洪水による被害を受けると考えますか？



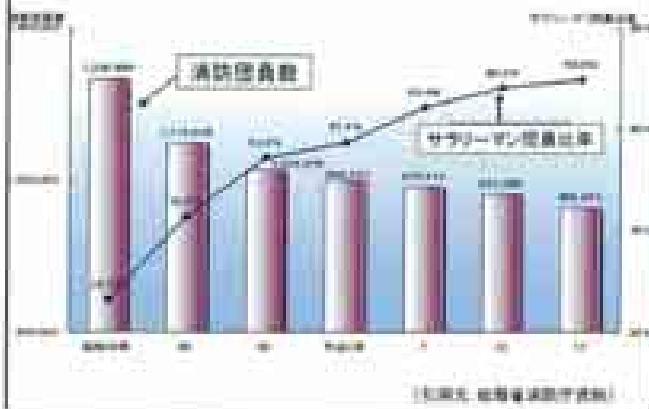
災害時要保護者の被災が増加

平成16年7月の新潟・福島豪雨と福井豪雨での年齢別死者

高齢者が避難に要した時間



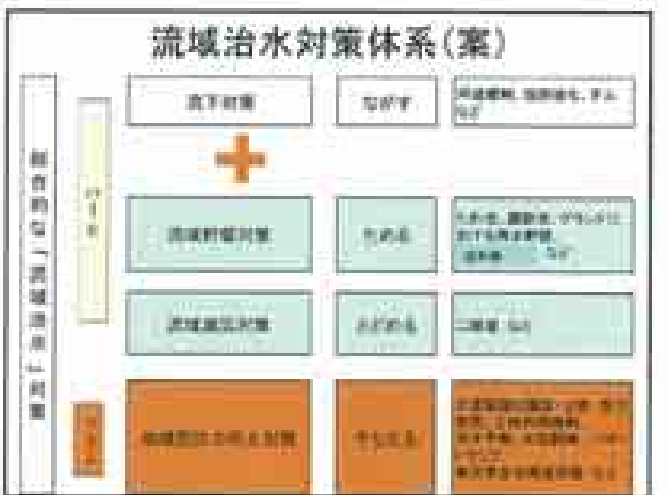
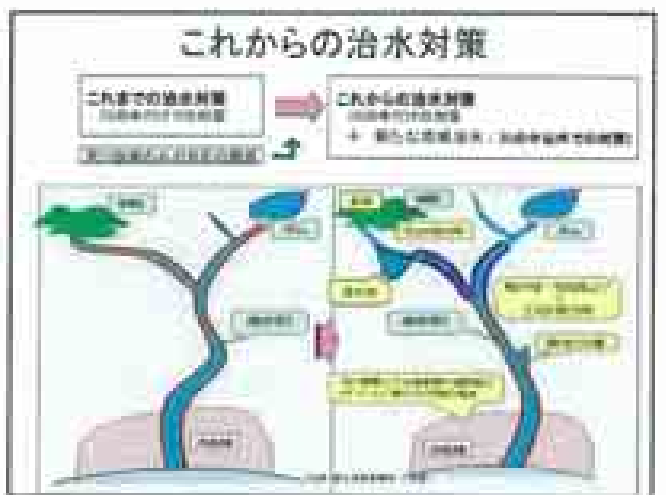
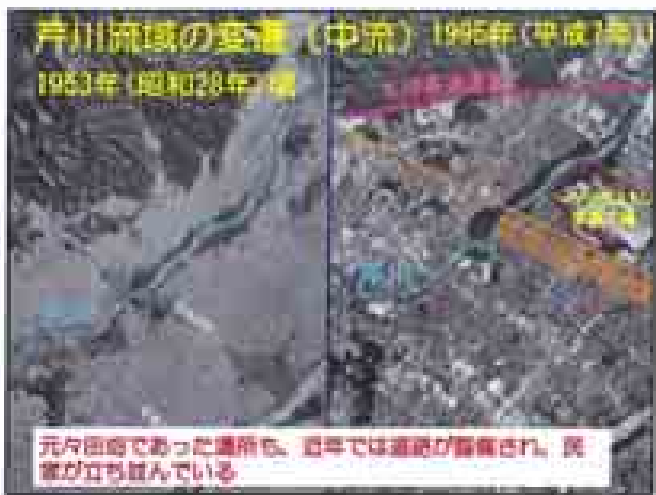
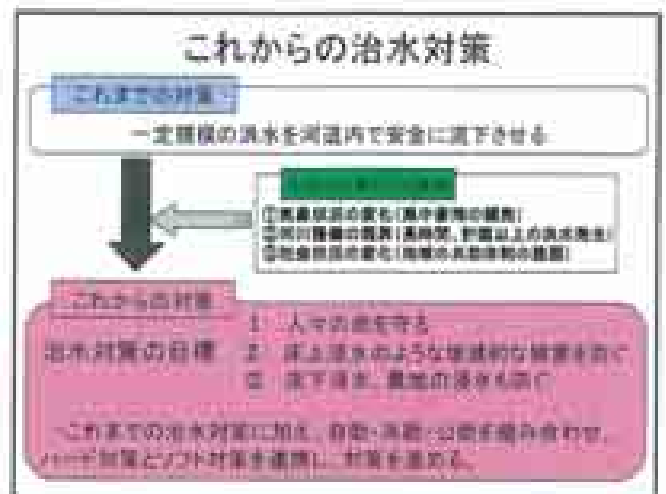
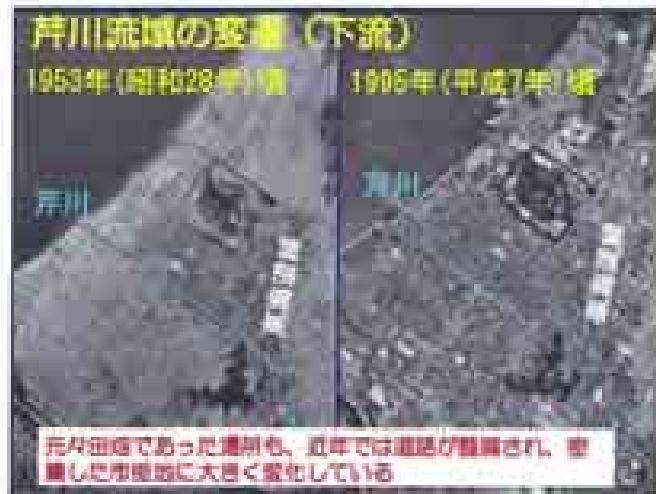
地域の水防を支える団員の減少



近年の治水を取り巻く状況

6. 土地利用状況の変化

元々目標であった場所も、近年では道路が整備され、需要が立ちあがっている



2. 芹川の流域治水検討結果について

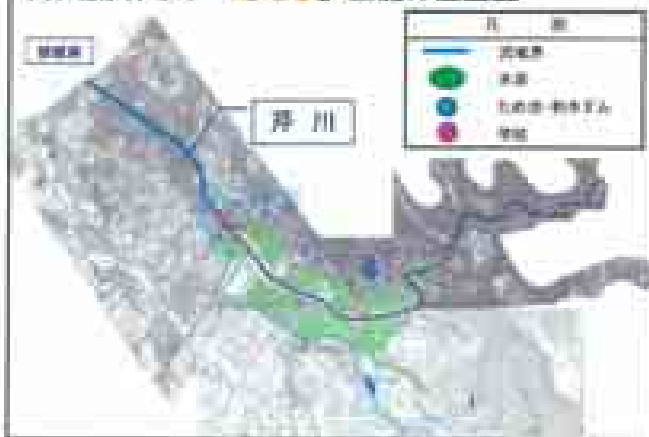
- ・ 芹川流域での「ためる」機能の検討結果
- ・ 河川の治水に対する考え方

芹川流域での「ためる」機能の検討結果

河川区画	河川名称	河川延長(km)	河川平均幅員(m)	河川平均水深(m)	治水機能	
					治水機能	治水効果
1	1	1	1	1	1	
2	2	2	2	2	2	
3	3	3	3	3	3	
4	4	4	4	4	4	
5	5	5	5	5	5	
6	6	6	6	6	6	
7	7	7	7	7	7	
8	8	8	8	8	8	
9	9	9	9	9	9	
10	10	10	10	10	10	
11	11	11	11	11	11	
12	12	12	12	12	12	
13	13	13	13	13	13	
14	14	14	14	14	14	
15	15	15	15	15	15	
16	16	16	16	16	16	
17	17	17	17	17	17	
18	18	18	18	18	18	
19	19	19	19	19	19	
20	20	20	20	20	20	

治水機能の検討結果は、治水機能の検討結果を基に、治水効果の検討結果を算出しております。治水効果の検討結果は、治水機能の検討結果を基に、治水効果の検討結果を算出しております。

芹川流域での「ためる」機能の位置図



滋賀県のホームページ

芹川流域での「ためる」機能の検討

治水機能	治水効果	治水効果
1	1	1
2	2	2
3	3	3
4	4	4

河川の治水に対する考え方

農業用HP(維持)

ハード対策

その結果、治水地帯として利用可能な土地での貯留容量については、約47万トンとなり、ダムと同等効果を確保することは可能であることが判明しました。

そのような中で、ハード対策として、「昇谷ダム+河川改修」を有力な対策として、今後の地域との対話を進めてまいります。

ソフト対策

あわせて、「地域防災力の向上」が超過洪水時など、どのような洪水にあっても死者をださないために重要であり、今後、その具体化に向け地域で議論を進めていただくことが必要と考えております。

そのためには、治水想定区域図を元に、洪水ハザードマップを作成し、水防組織も強化しながら、行政と住民が協働していざという時の命と財産を守る積極型の流域治水の仕組みづくりを行ってまいります。

流域治水の例1

とどめる **とどめる**

上流

中流

下流

この図は、流域治水の具体的な取り組みを示しています。上流ではダムによる洪水の抑制、中流では堤防による洪水の防止、下流では堤防と遊水池による洪水の調整が行われます。

3. これからの流域治水対策について

- 流域減災対策「とどめる」
- 地域防災力向上対策「そなえる」

流域治水の例2

この図は、地域住民が主体的に参加する流域治水の仕組みを示しています。治水委員会の設置、治水活動の実施、治水情報の共有などが行われます。

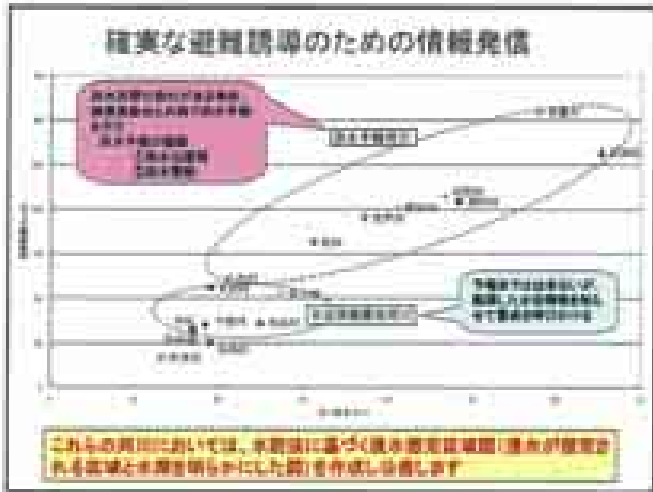
流域治水対策体系(案)

総合的な流域治水対策	治水対策	とどめる	治水対策、治水活動、治水活動
	流域防災対策	とどめる	治水対策、治水活動、治水活動
	流域減災対策	とどめる	治水対策、治水活動、治水活動
	流域防災力向上対策	そなえる	治水対策、治水活動、治水活動

芹川の防災意識の高まり

芹川の洪水の被害は深刻で、住民の防災意識が高まっています。

この写真は、芹川の洪水による被害の様子を示しています。住民の防災意識が高まり、治水活動が活発に行われています。



そなえる(その2) 氾濫により浸水の危険性がある区域での規制

災害危険区域の指定

浸水想定区域図(浸水想定)の作成

浸水想定区域
 浸水想定区域とは、洪水発生時に、浸水が想定される区域を指し、浸水の深さや範囲を予測した上で指定される。

浸水想定区域の指定
 浸水想定区域の指定は、国土交通省が定める「浸水想定区域指定の標準的な手続」に基づき、国土交通省が指定する。

規制による規制の例

- 家屋の上げ
- 道路の閉鎖
- 緑地の停止

浸水想定区域
 浸水想定区域は、浸水想定区域図に基づき指定される。浸水想定区域図は、浸水の深さや範囲を予測した上で指定される。

円滑な避難行動のための情報共有

水害に強い地域

共助 自助 公助

そなえる(その3) 氾濫時での逃げる体制整備

避難における避難経路の確保
 避難経路の確保は、避難経路の確保が重要です。

災害時避難経路の確保体制の整備
 災害時避難経路の確保体制の整備は、避難経路の確保が重要です。

避難経路の確保体制の整備
 避難経路の確保体制の整備は、避難経路の確保が重要です。

避難経路の確保体制の整備
 避難経路の確保体制の整備は、避難経路の確保が重要です。

避難経路の確保体制の整備
 避難経路の確保体制の整備は、避難経路の確保が重要です。

そなえる(その1) 平常時の予防

文化施設等への対策
 文化施設等への対策は、避難経路の確保が重要です。

学校・社会福祉施設・避難所・避難所
 学校・社会福祉施設・避難所・避難所は、避難経路の確保が重要です。

浸水想定区域等における土地の利用規制
 浸水想定区域等における土地の利用規制は、避難経路の確保が重要です。

土地の活用状況・整備
 土地の活用状況・整備は、避難経路の確保が重要です。

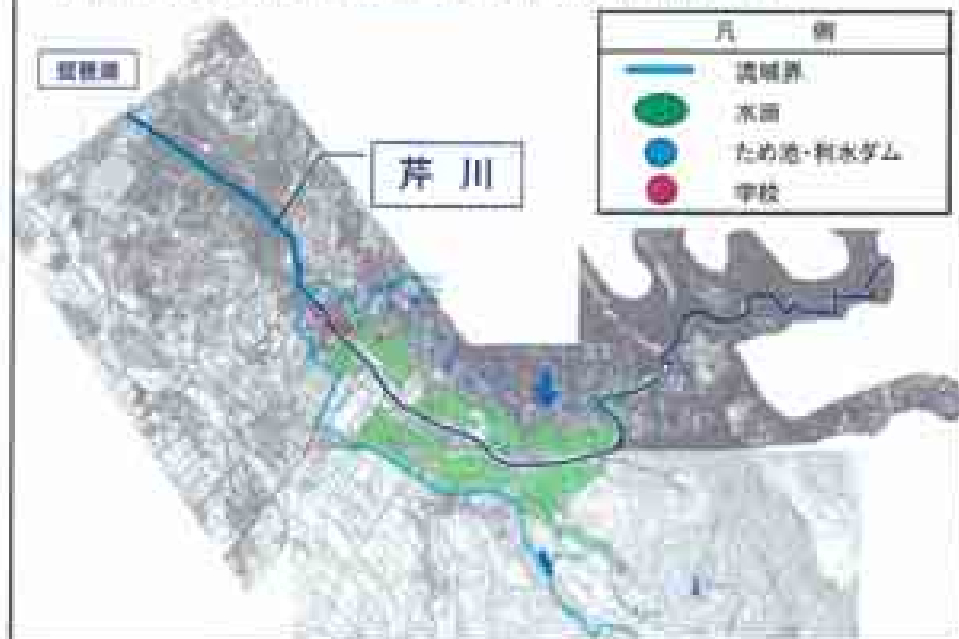
おわり

芹川の流域治水

平成19年 2月25日

豊賀県土木交通部流域治水政策室

芹川流域での「ためる」機能の位置図



芹川流域での「ためる」機能の検討

機能のこころ	機能イメージ	留意事項
貯水貯留 貯水設備の整備や貯留設備の整備 1.4.1.1	貯水貯留 	・貯留設備の整備や貯留設備の整備による貯留容量の確保。 ・貯留設備の整備や貯留設備の整備による貯留容量の確保。
貯水貯留設備の整備 貯水設備の整備や貯留設備の整備 1.4.1.2	貯水貯留設備の整備 	・貯留設備の整備や貯留設備の整備による貯留容量の確保。 ・貯留設備の整備や貯留設備の整備による貯留容量の確保。
貯留設備・貯留設備 貯水設備の整備や貯留設備の整備 1.4.1.3	貯留設備・貯留設備 	・貯留設備の整備や貯留設備の整備による貯留容量の確保。 ・貯留設備の整備や貯留設備の整備による貯留容量の確保。
貯留設備 貯水設備の整備や貯留設備の整備	貯留設備 	・貯留設備の整備や貯留設備の整備による貯留容量の確保。 ・貯留設備の整備や貯留設備の整備による貯留容量の確保。

芹川流域での「ためる」機能の検討結果

1. 流域貯留設備による貯留容量の確保					
機能	施設名称	貯留容量 (m ³)	合計		
			貯留容量 (m ³)	貯留容量 (m ³)	貯留容量 (m ³)
貯水貯留	貯水設備の整備	0	0	0	0
貯水貯留設備の整備	貯水設備の整備	0	0	0	0
貯留設備・貯留設備	貯水設備の整備	0	0	0	0
貯留設備	貯水設備の整備	0	0	0	0
貯留設備	貯水設備の整備	0	0	0	0
貯留設備	貯水設備の整備	0	0	0	0
流域貯留設備による貯留容量の確保			0	0	0
流域貯留設備・貯留設備による貯留容量の確保			0	0	0
流域貯留設備			0	0	0
流域貯留設備			0	0	0
流域貯留設備			0	0	0
流域貯留設備			0	0	0
流域貯留設備			0	0	0

流域貯留設備
 流域貯留設備による貯留容量の確保は、流域貯留設備の整備や貯留設備の整備による貯留容量の確保によるものである。このため、流域貯留設備の整備や貯留設備の整備による貯留容量の確保は、流域貯留設備の整備や貯留設備の整備によるものである。

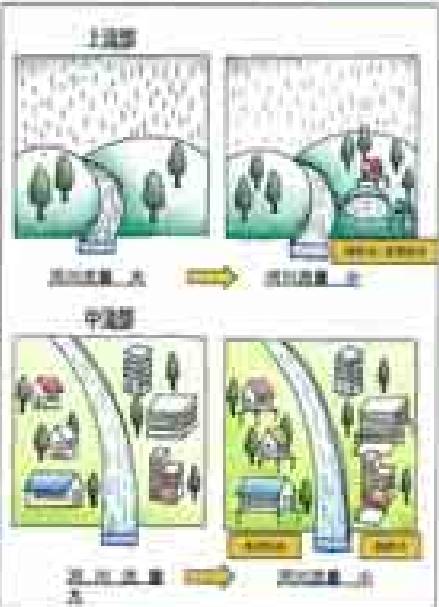
流域治水対策体系(案)



流域治水の例1

ためる

とどめる



※ 国土交通省河川局「河川整備計画ガイド」

流域治水の例2

【事例3】

地域防災力の向上

水防・雨量情報報道

災害情報の提供を促す



http://www.kyushu-nippon.com/kyushu/kyushu/kyushu.html

http://www.kyushu-nippon.com/kyushu/kyushu/kyushu.html

防災マップ



洪水が起きると、河川沿いの低地や、堤防の決壊による浸水が心配されます。また、浸水が起きた場合は、避難場所を確認し、避難マップを参考に避難しましょう。

「水防訓練」を通じて、地域住民の防災意識を高めています。

「水防訓練」を通じて、地域住民の防災意識を高めています。



「水防訓練」を通じて、地域住民の防災意識を高めています。

「水防訓練」を通じて、地域住民の防災意識を高めています。

水防訓練



「水防訓練」を通じて、地域住民の防災意識を高めています。

「水防訓練」を通じて、地域住民の防災意識を高めています。



水防訓練

水防訓練



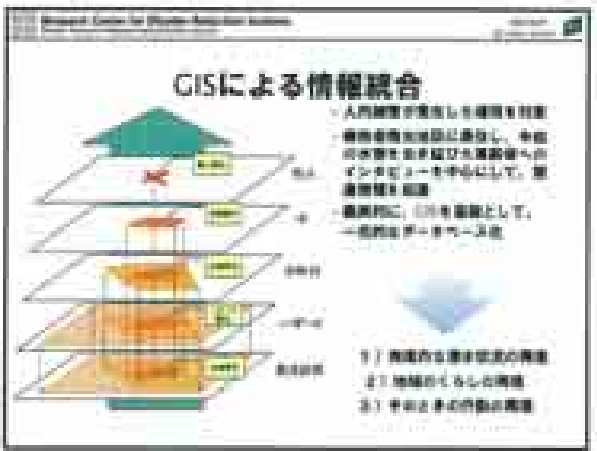
7.13新潟水害の犠牲者に学ぶ水防災

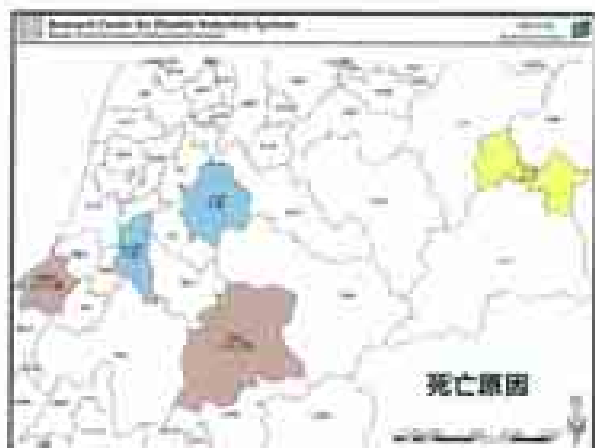
京都大学防災研究所
林 春男



文部科学省突発災害調査 目的

- なぜ高齢者だけに犠牲者が集中したのか、その発生要因を客観的に明らかにすることを目的とする
- 本研究では、この15名の人だけが犠牲者になったのかを規定する物理的・社会的・個人的要因の特性を多角的に調査し、その過程をGIS上で情報統合することを通して、重要な規定因の同定（プロファイリング）を行う。

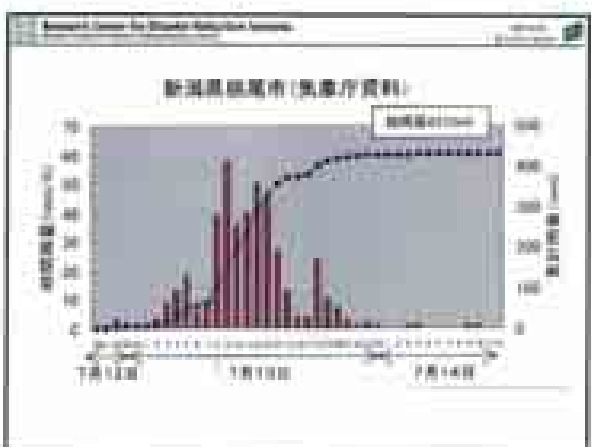
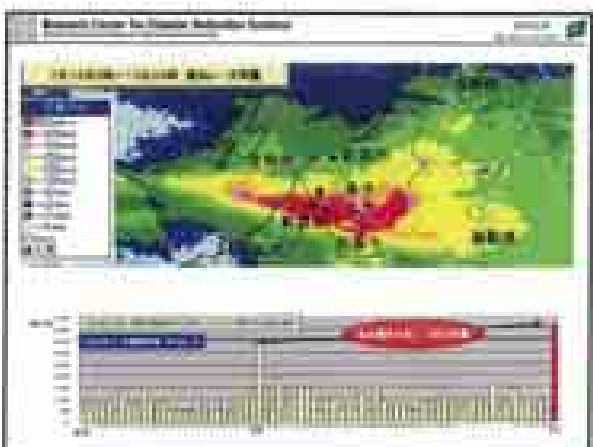
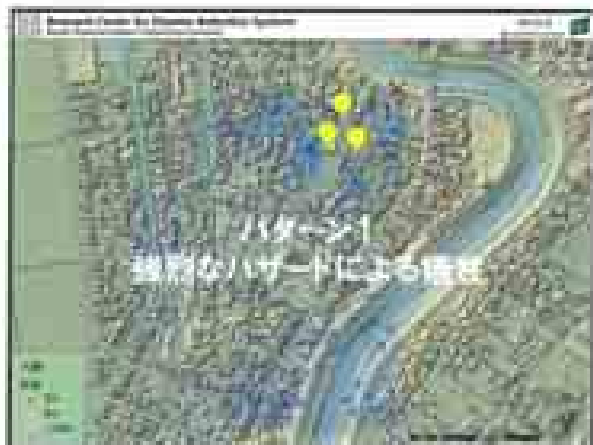




三条地域消防組合による情報

調査種別	調査種別コード	調査種別名	調査種別説明	調査種別色
死者発生	001	死者発生	死者発生	青
死亡原因	002	死亡原因	死亡原因	茶
調査対象	003	調査対象	調査対象	黄







Research Center for Disaster Reduction Science
7.13 水害による河川・低地被害
7.13.1

2. 市街地氾濫に対する家屋の被害性評価

- ・ 2次元河川氾濫解析結果の氾濫-浸透物による家屋被害程度を把握
- ・ 浸透解析結果をベースにレベリングに基づき立地条件と家屋種類の立体的な被害(浸水の高さ)に照らし合わせ被害性

1. 浸透解析結果から河川の氾濫-浸透物による家屋被害程度を把握

2. 浸透解析結果をベースにレベリングに基づき立地条件と家屋種類の立体的な被害(浸水の高さ)に照らし合わせ被害性

Research Center for Disaster Reduction Science
7.13 水害による河川・低地被害
7.13.2

1) 水害被害が被害するほどの山を越す地点の被害した地点での被害
2) 被害が低地を襲撃

Research Center for Disaster Reduction Science
7.13 水害による河川・低地被害
7.13.3

パターン3

パターン2

Research Center for Disaster Reduction Science
7.13 水害による河川・低地被害
7.13.4

7.13 水害による各河川の破壊時刻

河川名	場所	時刻	時刻	河川名	場所	時刻	時刻
荒川	荒川	7月13日 17:00	7月13日 21:00	荒川	荒川	7月13日 17:00	7月13日 21:00
荒川	荒川	7月13日 17:00	7月13日 21:00	荒川	荒川	7月13日 17:00	7月13日 21:00
荒川	荒川	7月13日 17:00	7月13日 21:00	荒川	荒川	7月13日 17:00	7月13日 21:00
荒川	荒川	7月13日 17:00	7月13日 21:00	荒川	荒川	7月13日 17:00	7月13日 21:00
荒川	荒川	7月13日 17:00	7月13日 21:00	荒川	荒川	7月13日 17:00	7月13日 21:00

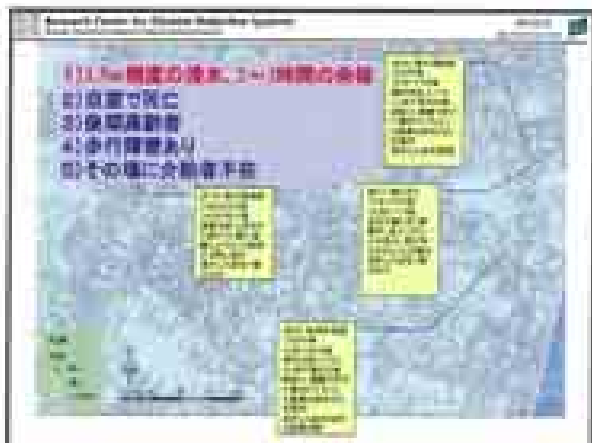
Research Center for Disaster Reduction Science
7.13 水害による河川・低地被害
7.13.5

パターン2

洪水時の外出による犠牲







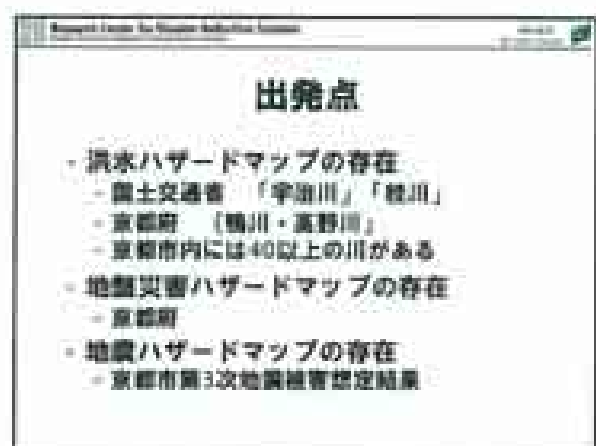
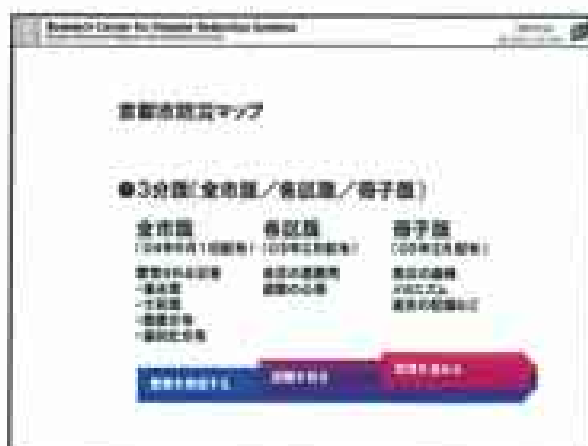
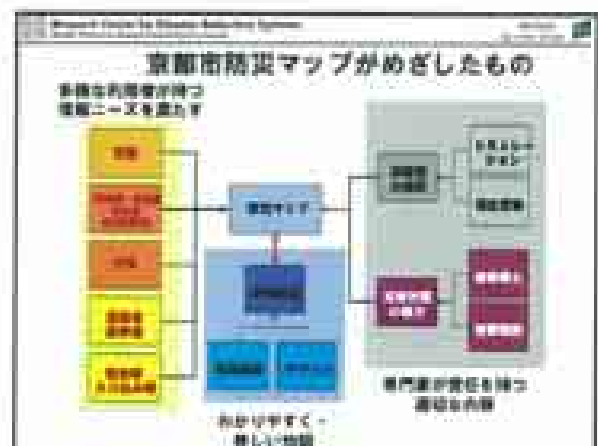
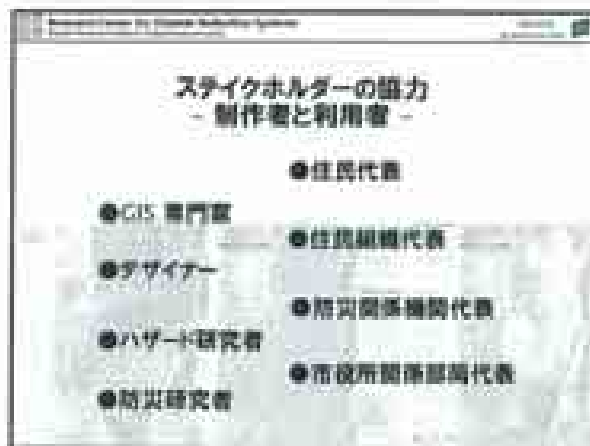
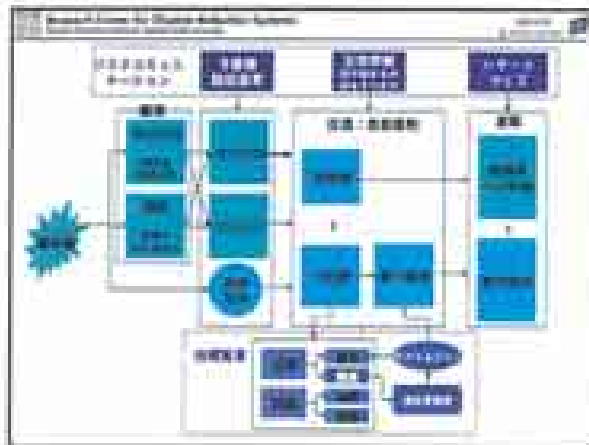
新聞報道による犠牲者に関する情報

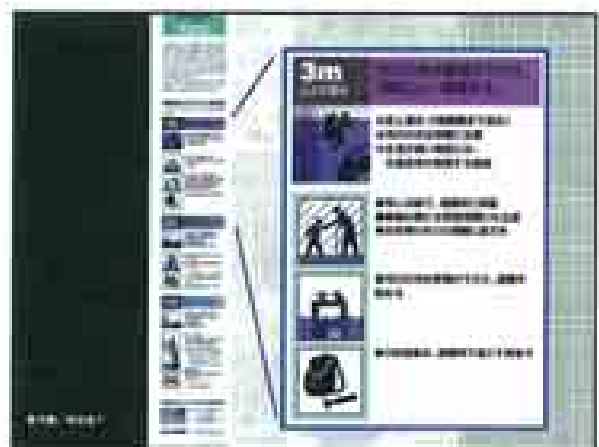
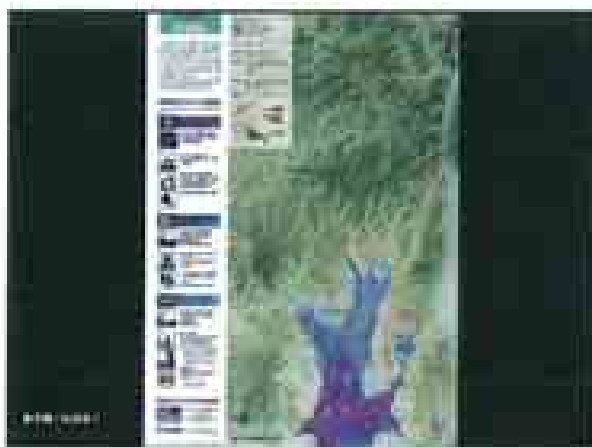
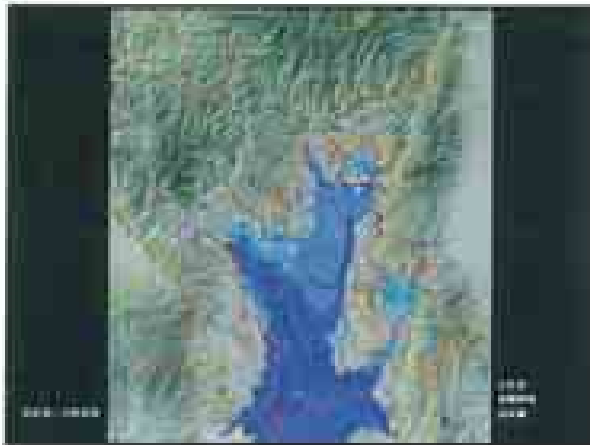
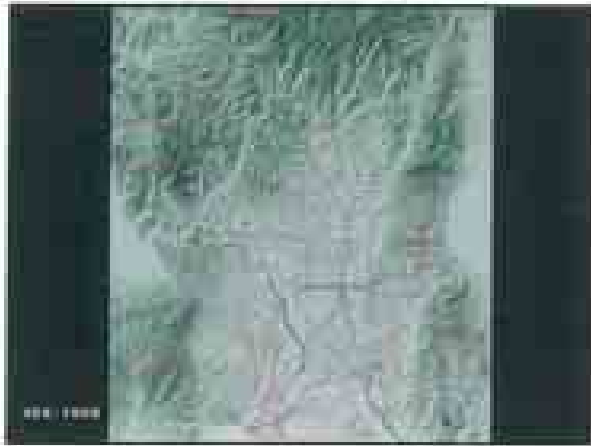
日付	地域	犠牲者数	記事内容
3/11	東北	15,466	東北地方太平洋沖地震による犠牲者数
3/11	関東	1,639	関東地方における犠牲者数
3/11	関西	1,000	関西地方における犠牲者数
3/11	中国	1,000	中国地方における犠牲者数
3/11	四国	1,000	四国地方における犠牲者数
3/11	九州	1,000	九州地方における犠牲者数
3/11	北海道	1,000	北海道における犠牲者数
3/11	沖縄	1,000	沖縄県における犠牲者数
3/11	合計	24,105	全国合計

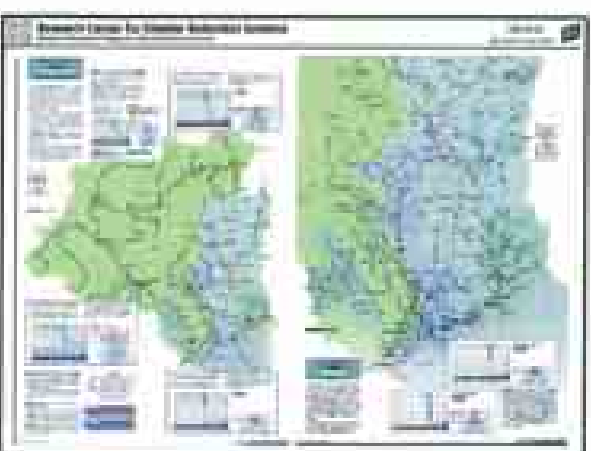
「高齢者が犠牲になる」は妥当な結論か？

年齢	犠牲者数	割合
0歳代	1	0.00%
1歳代	1	0.00%
2歳代	1	0.00%
3歳代	1	0.00%
4歳代	1	0.00%
5歳代	1	0.00%
6歳代	1	0.00%
7歳代	1	0.00%
8歳代	1	0.00%
9歳代	1	0.00%
10歳代	1	0.00%
11歳代	1	0.00%
12歳代	1	0.00%
13歳代	1	0.00%
14歳代	1	0.00%
15歳代	1	0.00%
16歳代	1	0.00%
17歳代	1	0.00%
18歳代	1	0.00%
19歳代	1	0.00%
20歳代	1	0.00%
21歳代	1	0.00%
22歳代	1	0.00%
23歳代	1	0.00%
24歳代	1	0.00%
25歳代	1	0.00%
26歳代	1	0.00%
27歳代	1	0.00%
28歳代	1	0.00%
29歳代	1	0.00%
30歳代	1	0.00%
31歳代	1	0.00%
32歳代	1	0.00%
33歳代	1	0.00%
34歳代	1	0.00%
35歳代	1	0.00%
36歳代	1	0.00%
37歳代	1	0.00%
38歳代	1	0.00%
39歳代	1	0.00%
40歳代	1	0.00%
41歳代	1	0.00%
42歳代	1	0.00%
43歳代	1	0.00%
44歳代	1	0.00%
45歳代	1	0.00%
46歳代	1	0.00%
47歳代	1	0.00%
48歳代	1	0.00%
49歳代	1	0.00%
50歳代	1	0.00%
51歳代	1	0.00%
52歳代	1	0.00%
53歳代	1	0.00%
54歳代	1	0.00%
55歳代	1	0.00%
56歳代	1	0.00%
57歳代	1	0.00%
58歳代	1	0.00%
59歳代	1	0.00%
60歳代	1	0.00%
61歳代	1	0.00%
62歳代	1	0.00%
63歳代	1	0.00%
64歳代	1	0.00%
65歳代	1	0.00%
66歳代	1	0.00%
67歳代	1	0.00%
68歳代	1	0.00%
69歳代	1	0.00%
70歳代	1	0.00%
71歳代	1	0.00%
72歳代	1	0.00%
73歳代	1	0.00%
74歳代	1	0.00%
75歳代	1	0.00%
76歳代	1	0.00%
77歳代	1	0.00%
78歳代	1	0.00%
79歳代	1	0.00%
80歳代	1	0.00%
81歳代	1	0.00%
82歳代	1	0.00%
83歳代	1	0.00%
84歳代	1	0.00%
85歳代	1	0.00%
86歳代	1	0.00%
87歳代	1	0.00%
88歳代	1	0.00%
89歳代	1	0.00%
90歳代	1	0.00%
91歳代	1	0.00%
92歳代	1	0.00%
93歳代	1	0.00%
94歳代	1	0.00%
95歳代	1	0.00%
96歳代	1	0.00%
97歳代	1	0.00%
98歳代	1	0.00%
99歳代	1	0.00%
100歳代	1	0.00%
合計	24,105	100%

- ### 総合的な避難対策
- 避難のあり方：避難所への移動・屋内避難
 - 住宅周辺の危険のないところでの屋内避難
 - 要介護者の避難のあり方
 - 成人介護者を対象とした避難方式
 - 要介護の人の避難を介助する人を作る
 - 地方自治体からの避難情報のあり方
 - 避難基準にもとづく避難情報の発令
 - 中小河川での避難体制
 - 都道府県管理の中小河川での水位観測・雨量観測の充実
 - 福祉資源と防災との連携
 - ケアマネジャーとの連携









第7回 芹川川づくり会議 アンケート調査

(※ 該当の項目にチェック (丸印) をつけてください)

1. あなたご自身のことについて、おたずねします。

【問1】 あなたの現住所はどちらですか。

市・町	大字
-----	----

【問2】 あなたが多賀町または彦根市にお住まいになって何年ですか。 (チェックは1つ)

1. 1年未満 2. 1～5年 3. 5～10年 4. 10～20年 5. 20年以上

【問3】 あなたの年齢はおいくつですか。(チェックは1つ)

1. 10歳未満 2. 10歳代 3. 20歳代 4. 30歳代
5. 40歳代 6. 50歳代 7. 60歳代 8. 70歳代以上

【問4】 あなたの性別を教えてください。(チェックは1つ)

1. 男性 2. 女性

2. 今日の川づくり会議についておたずねします。

【問1】 今日の会議の内容はわかりやすかったですか。(チェックは1つ)

わかりやすかった			わかりにくかった	
1	2	3	4	5

【問2】 今日の会議で興味があった内容は何ですか。(キーワード毎にチェックは1つ)

■ 講演「7.13新潟水害の犠牲者に学ぶ水防災」

興味がなかった				興味があった
1	2	3	4	5

■ 芹川川づくり会議の経緯について

興味がなかった				興味があった
1	2	3	4	5

■ 流域治水について

興味がなかった				興味があった
1	2	3	4	5

その他興味があった内容 (ご自由にお書きください)

3. 芹川流域における地域防災力について、おたずねします。

【問1】 あなたの町内会・自治会の防災活動では、どのような人または組織が主導的な役割を果たしていますか。あてはまる人や組織をすべてチェックしてください。

1. 町内会・自治会長 2. 町内会・自治会の防災担当の役員 3. 水防団員 (消防団員)
4. 民間事業所や企業組合・団体の人 5. 災害ボランティアの人 6. その他
7. 主導的な役割を果たしている人や組織はない

【問2】 あなたの町内会・自治会は、防災面で何か困ったことがあったときなど、消防署や消防団・水防団と、いつも連絡をとりあっていますか。ひとつチェックしてください。

1. いつもよく連絡をとりあっている 2. よく連絡をとりあっている 3. あまり連絡をとりあっていない
4. ほとんど連絡をとりあっていない

【問3】 洪水に対する現在の芹川の安全性についてどう思われますか。また、そのように思われる理由があればお書きください。ひとつチェックしてください。

1. 安全
2. どちらかといえば安全
3. やや危険
4. 危険
5. わからない

《理由》
